

インターナショナル スポーツ カイト ルール ブック

Version 2.3 2006 年 8 月 1 日

日本語訳 2007 年 5 月

変更履歴 Change History :

Version 1.0 - 1998 年8月 オリジナル

Version 2.0 - 2001 年6月

Version 2.1 - 2002 年7月1日

Version 2.2 - 2005 年8月1日

Version 2.21 - 2005 年 11 月 1 日

Version 2.3 - 2006 年 8 月 1 日

1. I. 序文 の注記を変更
2. III.A. ペナルティ Required Penalties を変更
3. III.B. 安全 Safety を変更
4. III. B.4. 危険なフライト Unsafe Flying の項目を追加
5. III.B.5. ペナルティが明記されていないルール／ガイドラインに対する違反
Breach of Rules and Guidelines were no penalty is mentioned を追加
6. III.G 構成 Composition に文章追加
7. III.H. ペナルティ Penalties の項目を追加
8. IV. ガイドライン Guidelines に認可団体の文章を追加
9. IV.I. プレシジョン Precision に文章を追加
10. IV.I.2.c) 最小最大時間 Minimum and Maximum Times を変更
11. IV.J. ミックス種目 Mix Discipline. を新たに追加
12. IV.G ミックスのセットアップタイムを修正
13. いくつか句読点やスペルミスを修正

The International Rule Book Committee – 2006

AJSKA	AKA	STACK
Fumiaki Tatsuma	Mike Huff→Jim Barber	John Mitchell
Masanobu Komuro	John Barresi	Peter Fiedler

目次 Contents

I.	序文 INTORODUCTION	4
II.	定義 DEFINITIONS	5
	A. 認可団体 SANCTIONING AUTHORITY.....	5
	B. インターナショナルルールブック委員会(IRBC).....	5
	C. スーパーバイザリーコミッティ SUPERVISORY COMMITTEE	5
	D. スキルレベル SKILL LEVELS	5
	E. 競技種目 DISCIPLINE	5
	F. クラス CLASS	5
	G. 競技会 COMPETITION.....	6
	H. チーム TEAM.....	6
	I. ペア PAIR	6
	J. インデビデュアル(個人) INDIVIDUAL.....	6
	K. 競技者 COMPETITOR.....	6
	L. デュアルライン カイト DUAL-LINE KITE.....	6
	M. マルチライン カイト MULTI-LINE KITE.....	6
	N. トレイン TRAIN	6
	O. テール TAILS	6
III.	ルール RULES	7
	A. ペナルティ REQUIRED PENALTIES.....	7
	B. 安全 SAFETY	7
	1.境界線 Boundaries	7
	2.境界線を越えてのフライト Flying over Boundaries	7
	3.競技者の境界線越え Moving over Boundaries	7
	4.危険なフライト Unsafe Flying	7
	5.ペナルティが明記されていないルール/ガイドラインに対する違反 Breach of rules or guidelines where no specific penalty is mentioned	7
	C. スポーツマンシップ SPORTSMANSHIP	7
	D. オフィシャルスタッフ OFFICIAL STAFF.....	7
	1.チーフジャッジ Chief Judge	8
	2.ジャッジパネル Judging Panels	8
	3.フィールドディレクター Field Director	8
	4.ピットボス Pit Boss	8
	5.ラインジャッジ Line Judges	8
	6.得点係 Scorers	8
	E. 競技中のアドバイス ADVICE WHILE COMPETING.....	8
	F. 抗議 PROTREST	8
	1.不当な扱い Unfair Treatment	8

2.職権乱用 Abuse of Official Position	8
G. ペアとチームのメンバー MEMBERSHIP OF PAIRS AND TEAMS.....	9
1.登録 Registration	9
2.構成 Composition	9
H. ペナルティ PENALTIES.....	9
IV. ガイドライン GUIDELINES.....	10
A. 説明会 BRIEFINGS.....	10
1.競技説明会 Competition Briefing	10
2.種目説明会 Discipline Briefing	10
B. 講評会 DEBRIEFINGS.....	10
1.競技講評会 Competition Debriefing	10
2.種目講評会 Discipline Debriefing	10
C. フライトオーダーの抽選 FLIGHT ORDER DRAW.....	10
D. 競技フィールド COMPETITION FIELD.....	10
E. ステージ イン/アウト STAGING IN AND OUT.....	11
F. イン/アウトのコール CALLING IN AND OUT.....	11
1.プレジジョン Precision	11
2.バレエ Ballet	11
G. セットアップタイム SETUP TIMES.....	11
H. バレエ BALLET.....	12
1.最小/最大制限時間 Minimum and Maximum Times	12
2.音楽 Music	12
3.振付 Choreography	12
4.実行力 Execution	13
I. プレジジョン PRECISION.....	13
1.コンパルソリー Compulsory Figures	13
2.テクニカル ルーティン Technical Routine	13
J. ミックス MIX DISCIPLINE.....	14
K. 風速規定 WIND GUIDELINES.....	14
1.風速範囲 Wind Speed Ranges	14
2.ウインド チェック Wind Checks	14
3.風待ち中断 Wind Recess	15
4.極端な天候 Extreme Weather	15
L. ヒート HEATS.....	15
M. 用具 EQUIPMENT.....	15
N. ヘッドセット HEADSETS.....	15
O. 失格 DISQUALIFICATION.....	15
P. ラウンチクルー LAUNCH CREWS.....	15

I. 序文 INTORODUCTION

インターナショナルルールブック委員会(IRBC)は、フライヤー達が世界中の競技会で使用できる、解りやすいルールブックを作るために 1996 年に組織されました。

この本では定義、ルール、ガイドラインのみについて述べている。その目的は、フライヤーや観客にとってカイトというスポーツがより魅力的なものにすることです。ですから、ここではジャッジの方法やコンパルソリーの詳細なことまではふれていません。それらは別冊の「ジャッジブック(Judges' Book)」と「コンパルソリーブック(Compulsory Book)」で詳述し、この作業の第一段階をひとまず完結します。

IRBC は、スポーツカイトルールの改良に長年にわたって寄与してくれた、いまや名を挙げるにはあまりに多くなってしまった全ての皆様に感謝申し上げます。その中でもこのルールブックをまとめるにあたって助力をいただいた皆様には特に感謝を申し上げます。また、辛抱強くこのルールブックの完成を待っていてくださった、今この本を開いてくださっている皆さん、フライヤー、ジャッジ、オーガナイザー、そしてスポーツカイトに関わる全ての方々に感謝申し上げます。このルールブックがスポーツカイトの新たな時代を切り開くものになると感じて戴けることを期待します。

注記:

本ルールブックは認可機関によって認められたルールであり、他に明記がない限り競技シーズンの開始から採用される。ルールブックの公式採用日は下記の通りとする。

AJSKA	2007 年 4 月 1 日
AKA	2006 年 8 月 1 日
STACK	2006 年 9 月 28 日

II. 定義 DEFINITIONS

A. 認可団体 Sanctioning Authority

このルールブックの認可権限は次の3つの団体にある：

全日本スポーツカイト協会(AJSKA)

アメリカンカイトフライヤーズ協会(AKA)

スポーツ・チーム・アンド・コンペティティブ・カイトイング(STACK)

これ以外に、この3つの認可団体による全員一致の合意があれば認可団体として加えることができる。各々の認可団体はこのルールブックの補足説明書や変更附則や追加附則などを発行することができ、インターナショナルルールブック委員会(IRBC)が作成した資料はどれでも発行することができる。認可団体の義務は、このルールブックおよび追加附則を全ての競技者とスタッフがいつでも手に入れられるように努めることである。競技者は自己の責任においてこれらのルール規程の全てを理解しなければならない。

最新版はIRBCの公式サイト <http://www.worldsportkite.com/irbc.htm> またはAJSKAのホームページで手に入れることができます。

B. インターナショナルルールブック委員会(IRBC)

インターナショナルルールブック委員会(IRBC)は各認可団体から二人のメンバー、合計6名から成る。

C. スーパーバイザリーコミッティ Supervisory Committee

スーパーバイザリーコミッティはオーガナイザー、ジャッジの代表者(チーフジャッジ以外の)、そして競技者の代表から成る。競技者の代表は競技説明会において競技者達によって選出される。コミッティのメンバーは必要に応じて他の競技者・スタッフに助言を求めることができる。

D. スキルレベル Skill Levels

スキルレベルはそれぞれの認可団体が規定するが、最低限、ノービスとマスターとする。スキルレベルの決定方法はそれぞれの団体に一任される。

E. 競技種目 Discipline

競技種目とは競技会を構成する一つの部分である。「マスター デュアルライン チーム バレー」「エクスペリエンス マルチライン インデビデュアル プレシジョン」のように表記する。

F. クラス Class

クラスは、1、2またはそれ以上の同一レベルの種目から成る。つまり、競技者はそれらの全ての種目を行わねばならない。例えば「マスター インデビデュアル デュアルライン バレー」と「マスター インデビデュアル デュアルライン プレシジョン」を組み合わせ『マスター インデビデュアル デュアルライン クラス』となる。

G. 競技会 Competition

競技会はいくつかの競技種目（Discipline）で構成し、同一会場で1日あるいは数日間で行う。

H. チーム Team

チームは三人以上。

I. ペア Pair

ペアは二人。

J. インデビデュアル(個人) Individual

インデビデュアルは一人。

K. 競技者 Competitor

競技者とは競技種目におけるチーム、ペア、あるいはインデビデュアルを指す。

L. デュアルライン カイト Dual-Line Kite

デュアルライン カイトは二本ラインで操作するもの。

M. マルチライン カイト Multi-Line Kite

マルチライン カイトは3本以上のラインで操作する。

N. トレイン Train

トレインは三機以上のカイトを連ねて一まとめに飛ばすこと。

O. テール Tails

テールは付属物でカイトの一部とはみなさない。

注記: カイトの一部ではないからテールが地面等に接触しても減点の対象にならない。

III. ルール RULES

これらは、いかなる状況においてもオフィシャル(競技役員)が変更することはできない。

A. ペナルティ Required Penalties

ルールやガイドラインに違反をした競技者にはペナルティが課せられる。

B. 安全 Safety

いかなる時でも安全を最優先とする。

1. 境界線 Boundaries

外側境界線は必ず設置する。また、出来る限り内側境界線を設置することが望ましい。内側境界線(イエローフラッグ対象)は、ラインジャッジとフィールドディレクターが、競技者あるいはカイトが外側境界線(レッドフラッグ対象)に近づいたことを注意するためのものである。

外側境界線とは、ロープ、コード、テープなどを張るために立てたポール、支柱を結んだ想像上のラインのことであり、ロープ、コード、テープそのものの位置ではない。

2. 境界線を越えてのフライト Flying over Boundaries

演技中、演技に入る前、演技終了後のいずれにおいても外側境界線を越えてのフライトはその種目を失格となる。すなわち、このルールは、ヘッドジャッジが規定する「その種目の開始から終了までの間」に発生した全てに対し適用される。

3. 競技者の境界線越え Moving over Boundaries

演技中に競技者の体の一部でも外側境界線を越えた場合は失格となる。

4. 危険なフライト Unsafe Flying

危険なフライトに対しては、ヘッドジャッジの裁量でその種目を、あるいはチーフジャッジの裁量で大会そのものに対する失格を言い渡すことができる。

5. ペナルティが明記されていないルール/ガイドラインに対する違反 Breach of rules or guidelines where no specific penalty is mentioned

競技者の行為の重大さに応じて、チーフジャッジはその競技種目、クラスあるいは大会そのものに対しペナルティあるいは失格を与えることができる。

C. スポーツマンシップ Sportsmanship

いかなるときも競技者はスポーツマンシップにのっとり行動すること。

D. オフィシャルスタッフ Official Staff

競技役員はジャッジ以外の任務を他の人に委任することができる。

1. チーフジャッジ Chief Judge

競技会には必ず一人のチーフジャッジをおく。チーフジャッジは各種目の、ヘッドジャッジと他のジャッジを指名する。また、チーフジャッジはヘッドジャッジも兼任できるが、その競技会の競技者にはなれない。

2. ジャッジパネル Judging Panels

全ての種目のジャッジパネルは最低3名とするが、5名が望ましい。

3. フィールドディレクター Field Director

全ての種目に一名のフィールドディレクターをおく。

4. ピットボス Pit Boss

競技者数や競技者の大会慣れの程度など必要に応じてピットボスを配置する。

5. ラインジャッジ Line Judges

種目によっては最低二名のラインジャッジを配置する。

6. 得点係 Scorers

得点係は、ジャッジパネルの採点を集計し、チーフ ジャッジの監修のもとで結果を発表する。もし認可団体が独自の採点プログラムあるいは手法を公式に開発した時は、その団体が開催するすべての大会に適用しなければならない。

E. 競技中のアドバイス Advice While Competing

競技フィールド上において競技者はフィールドディレクター以外からのアドバイスを受けることはできない。

F. 抗議 Protrest

1. 不当な扱い Unfair Treatment

不平等な扱いを受けたと感じた競技者は誰でも適切な時間内で、その種目のヘッドジャッジに抗議することができる。競技者がそのヘッドジャッジの対応に納得できない場合は、チーフジャッジに訴えることができる。チーフジャッジが解決できない場合は文書にて、スーパーバイザーリーコミッティに抗議することができる。それでも競技者の満足する結果にならない場合、その抗議書とそれに対するスーパーバイザーリーコミッティの返答書を、その競技会の認可団体(Sanctioning Authority)に抗議することができる。

一つ以上の認可団体が公認した国際競技会では、インターナショナルルールブック委員会(IRBC)への抗議が最終手段である。

2. 職権乱用 Abuse of Official Position

オフィシャルがその立場を乱用、またはスポーツマンらしくらぬ振舞をしていると、競技者

や他のオフィシャルが感じた場合、スーパーバイザリーコミッティのメンバーに苦情を申し立てるか、文書にてその競技会の認可団体に抗議することができる。スーパーバイザリーコミッティはその抗議が妥当と判断したときは、そのオフィシャルに注意を与える。この場合、スーパーバイザリーコミッティは後日、文書にて認可団体に報告する。認可団体は、報告書をもとにそのオフィシャルに対し適切な処置をする。その処置には、しかるべく期間オフィシャルをつとめる権利を剥奪することも含む。

一つ以上の認可機関が公認した国際競技会では、認可団体に代わってインターナショナルルールブック委員会(IRBC)が上記の処置を行う。

G. ペアとチームのメンバー Membership of Pairs and Teams

1. 登録 Registration

ペアとチームのメンバーはそれぞれの認可団体(日本では AJSKA)に登録する。登録方法はその認可団体が定める。

2. 構成 Composition

チーム構成は競技会の最中(例えばバレーとプレジジョン)においても、競技会毎に変わっても良い。一つの競技会で、チームメンバーが複数のチームに出場することはできない。

プレジジョンにおけるチームメンバー数は最大5名までとする。プレジジョンに出場したメンバーは全員バレーにも出場しなければならない。バレーにおけるチームメンバー数の制限は無い。違反した場合はその種目はゼロになる。これはチーフジャッジが監視する。

ペアの構成は一つの競技会中で異なってはならないが、競技会毎に変わってもよい。

H. ペナルティ Penalties

ルール違反に対していくつかのペナルティが課せられる。そのペナルティの詳細はジャッジブックに示す。すべての競技者・スタッフは**ジャッジブックのVI. ペナルティ**をきっちり理解すること。

ペナルティの例として：

図形の間違い

指示された図形と異なる飛行をした場合、ジャッジはそのコンパルソリーの得点をゼロとする。競技者から事前に進入方向を逆から行う、と報告せずに図形の指示とは逆の方向からコンパルソリーを開始したときもゼロとする。

IV. ガイドライン GUIDELINES

これらの事項は、競技会開始日より30日以前に競技者に伝える場合を除いて、競技会運営者が変更してはならない。また、競技会運営者はそれらの変更を認可団体に報告し、認可団体はその変更内容について却下する権限を持つ。

A. 説明会 Briefings

1. 競技説明会 Competition Briefing

競技会開始前には、チーフジャッジの指揮のもと、全ての競技者、ジャッジ、オフィシャルが集合して説明会を行う。チーフジャッジは最低限、その競技会に於ける特別ルールあるいはガイドラインの説明、競技進行順の告知、競技会に関する質疑応答を行う。また、スーパーバイザリーコミッティの競技者代表を選出するための十分な時間を割り当てる。チーフジャッジの判断で、数日間にわたる競技会のときは、毎日概要説明会を行うことができる。

2. 種目説明会 Discipline Briefing

ヘッドジャッジは、各種目の開始前にその種目に関する説明会を行う。最低限、その種目を担当するジャッジ、フィールドディレクター、ピットボス、ラインジャッジの紹介、ステージイン、ステージアウトの手順の説明、プレジジョンの指定コンパルソリーフィギュアの発表、フィールドディレクターにバレーの音源収集を確認、その種目に関する質疑応答を行う。

B. 講評会 Debriefings

1. 競技講評会 Competition Debriefing

競技会終了時には、チーフジャッジの指揮のもと、全ての競技者、ジャッジ、オフィシャルが集合して講評会を行う。講評会の目的は、様々な立場の参加者が話し合い、次の競技会をより良くするための提案をすることにある。

2. 種目講評会 Discipline Debriefing

ジャッジまたは競技者が望む場合は、ヘッドジャッジによる種目講評会を開く。

C. フライトオーダーの抽選 Flight Order Draw

各種目のフライトオーダーの抽選は、あらかじめ無作為に行って作成したものを明示するか、種目説明会の時に行う。意見が対立して時間的に不都合が出た場合はチーフジャッジが調整する。

D. 競技フィールド Competition Field

外側境界線は、最低限下記のサイズとするが、より広いことが望ましい。

	メートル	フィート
チーム／ペア	110 x 110	360 x 360
個人デュアルライン	90 x 90	295 x 295
個人マルチライン	75 x 75	246 x 246

外側境界線から3メートル（10フィート）以上内側に、内側境界線を設けることが望ましい。サイズはメートル表示が基本である。

E. ステージ イン／アウト Staging In and Out

競技フィールドに隣接してステージイン エリアとステージアウト エリアを別々に設ける。ステージイン エリアで待機し、フィールドインの合図を待つことは競技者の義務である。

F. イン／アウトのコール Calling In and Out

1. プレシジョン Precision

それぞれのコンパルソリー開始時に「イン」、終了時に「アウト」をコールする。

インコールしてから45秒以内にアウトコールが無い場合はそのコンパルソリーのスコアはゼロになる。また、その時点で次のコンパルソリーあるいはテクニカルルーティンのセットアップタイムの計測をただちに開始する。

また、テクニカルルーティンの開始、終了時も「イン」、「アウト」をコールする。

2. バレー Ballet

競技者が演技開始時、終了時に各々「イン」「アウト」のコールを行う。しかし、コールが無くてもジャッジは音楽開始を「イン」音楽終了を「アウト」とみなす。

G. セットアップタイム Setup Times

競技者は、フィールドディレクターの「入場の合図」があるまでフィールドに入ってはいけない。「入場の合図」が下記のセットアップ制限時間の計測開始時である。

	個人	ペア	チーム
種目の開始	3分	4分	4分
コンパルソリーの間	45秒	45秒	45秒
コンパルソリーとテクニカルルーティンの間	90秒	90秒	90秒
コンパルソリーとバレーの間	90秒	120秒	120秒

競技者はフィールドディレクターの合図があるまでは演技を始めてはいけない。セットアップタイムが過ぎてもフィールドディレクターの演技開始の合図がない場合には待機し、フィールドディレクターの合図を受けてから45秒以内に演技を開始すること。いかなる場合もフィールドディレクターの合図から演技開始までの許容時間が45秒以下ということはない。演技開始の合図を受けてから規定の時間内に競技者が演技を開始できなかった場合には、フィールドディレクターが強制的に「イン」コールを宣言し、それに従ってジャッジは採点を始める。

H. バレー Ballet

バレーは、音楽を解釈して表現すること、と特性付けられる。従って、ほとんどあるいは全く音楽無しの演技はバレーと認められない。

1. 最小／最大制限時間 Minimum and Maximum Times

	個人	ペア	チーム
最小	2分	2分	2分
、最大	4分	5分	5分

2. 音楽 Music

テープ、CD その他の音源は種目説明会時に提出すること。曲は頭出ししておき、はっきりと名前を書いておくこと。競技者は三曲まで提出できるが、セットアップタイムが宣言される30秒前までにフィールドディレクターにどの曲を使うかを伝える。オーガナイザーとチーフジャッジが許可すれば生演奏でもよい。

曲の始まりの前に合図(信号音)があるのは好ましい。音楽は、演技の為に作曲したもの、編曲したもの、あるいは既存のものなどである。但し、音楽は完結した一つの曲でなければならない。ぶつぶつ途切れた部分の寄せ集めではなくきちんと繋がられたものとする。もし、幾つかの曲を使う場合は一つの曲として印象付けられるように繋ぎ合わされねばならない。音楽は違和感なく終了すべきで、制限時間に合わせるためにブツリ切るような出し抜けた終わり方をすべきではない。

3. 振付 Choreography

振付とは、選んだ音楽に対する解釈・表現のことであり、曲の始まりから終わりまでの一連の演技である。すなわち、音楽と演技は密接に関係付けられていることである。演技(Routine)は、ダイナミックさ、テンポ、リズム、オリジナリティ(劇的さ・スリル感が重要ということではない)、ムード、創造性、バラエティさ、などの音楽構成要素が多彩に変化していく様相を表現することである。

4. 実行力 Execution

実行力とは競技者の飛行技術を評価するもので、演技の複雑性、大胆さ、技術的難易度と共に、フライト技術の正確さ、カイトの制御能力、タイミングの取り方（音楽との整合性、チームではさらに他のメンバーの動作との一致）、カイト間の距離の保ち方（チーム／ペア）、ウィンドウインドウの活用、について採点する。

I. プレシジョン Precision

プレシジョンは技術レベルを試すもので、コンパルソリーとテクニカル ルーティンで構成され、この順で実施する。プレシジョンの一部（たとえばコンパルソリーの一つ）を削除する場合は、競技者およびジャッジ全員一致の合意が必要である。

1. コンパルソリー Compulsory Figures

様々な技術の熟練度を測る為に、最高6つまでのコンパルソリーを競技会の30日以上前に発表し、そのうち3つのコンパルソリーをチーフジャッジが競技会当日に選んで行う。競技者はどの図形においても示された進入方向と逆から（左右反転の図形）始めても良い。ただし、フィールドディレクターが演技開始の合図を出す前に、競技者はフィールドディレクターにその旨を伝えなければならない。その報告を怠った場合、その図形に関しては採点がゼロになる。一つのコンパルソリーはインコールから45秒以内に完了しなければならない。

2. テクニカル ルーティン Technical Routine

テクニカル ルーティンは、競技者の構成力と技術力を表現するために組み立てられた一連の演技(routine)である。審査及び採点項目は、実行力と構成力から成る。

a) 実行力 Execution

実行力は、正確さ、コントロール、タイミング、スペーシング、ウィンドウインドウの活用、複雑さ、そして技術的に厳しく大胆なマヌーバーを取り入れているか、（以上のことに限るわけではないが）について評価する。

b) 構成力 Content

構成力は、テンポ、リズム、オリジナリティ（劇的さ・スリル感が重要ということではない）、創造性、バラエティさ、などについて評価する。

c) 最小／最大演技時間 Minimum and Maximum Times

	個人	ペア	チーム
最小	1分	2分	2分
最大	3分	4分	4分

J. ミックス Mix Discipline

ミックスはプレジジョンのコンパルソリーとバレーで構成し、その順に実施する。要素の一部（たとえばコンパルソリーの一つ）を削除する場合は、競技者およびジャッジ全員一致の合意が必要である。

K. 風速規定 Wind Guidelines

1. 風速範囲 Wind Speed Ranges

下記の風速範囲で競技を行う。

	最低		最高	
	kph	mph	kph	mph
ノービス	7.0 ≐ 2.0m/s	4.4	30.0 ≐ 8.3 m/s	18.6
マスター	4.0 ≐ 1.1 m/s	2.5	45.0 ≐ 12.5 m/s	28.0

(1kph は ≐ 0. 27777m/s)

風速は kph 表示が基本で、mph はその略換算値である。他のレベルに対する規定値はそれぞれの団体(日本では AJSKA)が決める。

2. ウィンド チェック Wind Checks

a) 「イン」コールの前 Before Calling IN

インコールの前ではいつでもウィンド チェックを要求することができる。ウィンド チェックが行われている間も、競技者はその他のルールやガイドラインが適用されている。フィールドディレクターは 10 秒間計測する。風速が規定外の場合は、競技者は「イン」コールの必要は無く、フィールド ディレクターは風待ち中断(wind recess)を宣言する。

b) 最低時間まで Up to Minimum Time in Technical or Ballet Routine

テクニカル ルーティンとバレーの最低時間までは、ウィンドチェックを要求できるが、測定中も演技を続けること。フィールドディレクターは 10 秒間計測する。風速が規定外の場合、競技者は演技を中止することが出来る。フィールドディレクターは風待ち中断(wind recess)を宣言する。

3. 風待ち中断 Wind Recess

風待ち中断が宣言された時、ヘッドジャッジは競技再開の時間及び方法について直ちに決定する。適切な時間内で競技を開始できない場合、チーフ ジャッジはその種目の延期または中止を決断する。延期とした種目を当日中の数時間以内に再開できない場合、それまでの演技はキャンセルされ、再度、競技者全員がその種目を最初から行う。

競技者はフィールド上で待機するか、発表を待つかを指示される。演技再開の時は、ルールに定められたその種目のセットアップタイムに基づく準備時間が与えられる。

4. 極端な天候 Extreme Weather

極度な弱風・強風、豪雨、稲光りなど天候が変わって、危険な状態あるいは不公平な競技会になりうるとチーフジャッジが判断した場合、適切な処置をとる。その処置とは、風待ち中断、風速範囲の変更、種目あるいは大会の中止、フィールドの拡大、コンパルソリー数の削減、テクニカルルーティンの省略、などである。

その場合、チーフジャッジは競技者、オフィシャル、オーガナイザーを召集して特別説明会を開き、ルールやガイドラインの変更内容を全員が 明確に理解し納得することを徹底する。

L. ヒート Heats

16人以上の競技者がいる種目ではヒート（予選）を行うものとする。各ヒートの競技者数は15人以内で、できる限り同数とする。チーフジャッジとオーガナイザーは、決勝進出者数が15人以下になるように各ヒートの通過者数を決める。それは最初の競技説明会において発表すること。

M. 用具 Equipment

競技者はその種目に適切で安全なものであるならば、どのようなデュアル／マルチライン カイトを使うことができる。プレジジョンやミックスにおけるコンパルソリー間あるいはテクニカルルーティンとの間、あるいは風待ち中断に適用されるセットアップタイム規定の時間内でカイトを交換することができる。切れたラインは取り替えること。結びなおして使うことはできない。

N. ヘッドセット Headsets

チームあるいはペアは、互いの意思疎通のためヘッドセット（無線）を使用してもよいが、大会運営や地域通信網に用いられているシステムに影響を与えないもので、かつ電波法に違反しないものとする。

O. 失格 Disqualification

失格となった競技者は速やかにフィールドから退場すること。いかなる抗議も議論もその種目の終了後に行うこと。

P. ラウンチクルー Launch Crews

ラウンチクルーは、カイトの設置、クラッシュした際のカイトの立て直し、用具の修繕などのために、競技者がフィールド内に入れることができる補助員である。個人とペア

は2人まで、チームはメンバー数と同数までのラウンチクルーを付けられる。
競技者がラウンチクルーを必要としながらもいない場合は、種目説明会時にその種目に出場する他の競技者の中からラウンチクルーが指名される。これは、ラウンチクルーを必要とする競技者の直前・直後が演技順ではない競技者がいる場合のみ可能である。要請があったときは、ラウンチクルーの指名方法の変更を最初の競技説明会において説明しておくこと。

終わり END